学校だより No. １０
令和７年２月７日（金）発行
須坂市立東中学校
文責：　　（教頭）
http://www.azuma-school.ed.jp/

おはようございます。立春を過ぎましたが、雪の降る寒い朝となりました。１年生は昨日、入生説明会で先輩としての初めての仕事を立派に努めてくれました。２年生は三学期の生徒会の目標決め、そして修学旅行の活動をしています。３年生は、来週いよいよ前期選抜となりました。今日は今年度最後の校長講話として話をさせていただきます。

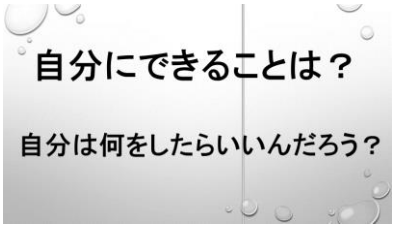
一枚の写真を見てください。実は、校長先生が、人生の中で最も衝撃を受けた写真であります。食べるものがなくて、命がもう僅かしかない子どもを、鳥が狙っている写真です。この写真を見て、どうなっているのだろうか世の中は。社会は。そして、この子の親はもうとうに命はないのだろうか、そんなことを色々と考えた写真でありました。アフリカのスーダンというところで撮られた写真で、ケビン・カーターいう報道写真家が撮った写真です。「ハゲワシと少女」というタイトルがつけられました。ピュリツァー賞という一年間で最も影響を与えた報道写真に贈られる賞を受賞した写真でもあります。ところがその写真が公表されるといろんな議論が巻き起こりました。このケビン・カーター氏はこの少女を助けないで写真を撮ったのか？そんな議論も巻き起こりました。もちろん写真を撮った後にすぐにハゲワシを追い払ったわけですが、そんな誹謗中傷からこのケビン・カーター氏は、この後すぐに命を自ら落としてしまったそんなこともありました。

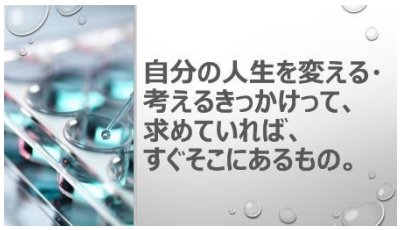
何でこんな話をしたかと言いますと、校長先生は中学のとき、部活動と友達と遊ぶことが大好きなそんな中学生でした。進路の話、将来の話もしましたがなかなか決められず、どんな生き方がいいのかな、どんな道がいいのかなとずっと悩んだ中学生でありました。まだその段階では決まらなかったので、普通科の高校へ進学しました。

高校１年生の時に、先生の人生を左右する出会いがありました。今は中学三年生で勉強しますが、先生の頃は高校の英語の授業でキング牧師の「I　have　a　dream」を学びました。とても衝撃を受けました。大勢の黒人群衆の前でルーサー・キング氏が演説をした一部です。

私には夢がある
私の４人の子供たちが　いつの日か肌の色ではなく
人柄によって判断される国に住むことを
私の夢がある
いつの日か黒人の少年少女が白人の少年少女と手を取り合い、
兄弟姉妹として共に歩むことができることを

この文を読んだ時に、アメリカってどういう国なのだろうか。日本はどうなんだろうか。今だに、こんなひどいことが残っているのか。もっともっと勉強しなければならない。こういうことに自分の人生を使っていきたいなとそんなことを考えたきっかけになった事件でした。





それから大学に進むと、アフリカで大干ばつが起きました。食料がない、食べるものがない、生きているのがつらい。そんな時代となってきました。その時にイギリスで、ライブ・エイドというたくさんのアーティストが集まって、アフリカのための基金を集めるそんなライブが開催されましたまた。皆さん知ってますか。「ウィアーザワールド」という曲がレコーディングされ、多くのアーティストからアフリカを救うための基金を集めるそんな歌もつくられました。

先生がちょうど 20 歳の時でした。考えました。自分はどうしたらいいんだろうか。何が自分にできるんだろうか。そんなことを考えた大学生活でありました。海外に行って、ボランティアをすることがいいのだろうか…と思って、いくつかの国に行って、いろんなボランティアもしてみました。青年海外協力隊に入ってその国の為に尽くすのもいいな、と思って試験も受けました。そして合格して赴任する国も決まったりしたこともありました。一方で教員になるための大学にいましたので先生になるっていう夢もありました。協力隊に行くのがいいのか先生になるのがいいのか、この二つでとても迷いました。最後に協力隊の方からこんなことを言われました。「今自分一人で行くよりも先生になって多くの子どもたちに、いろんな話をした方がいいじゃないか。その方が、ためになるんじゃないか」そんな話を頂きまして、最後は先生なる決断をしました。そして先生になって数年した時にこの写真（「ハゲワシと少女」）と出会いました。もっともっと世界のことを考えて、苦しい人のことを考えていく、そんなことを進めていこう。そんなことをまたここで改めて決心しました。

今 193 国のうちで本当に豊かな水の国は、わずか 21 か国しかありません。そして蛇口から出てくる水を安全に、安心して飲める国は日本を含めてたった 11 カ国しかありません。そんな事実もいろいろ勉強して分かりました。中学生のときは分からなかったけれども自分の人生を変えるきっかけというのはどこにでもあるなということを感じました。

先生も色々なことからきっかけを得て、こうやって生きていこう、そんなことを考えた次第であります。みなさんのこれからの人生はまだまだ長い人生は待ってます。たくさん考えてたくさん悩んでそして楽しんでください。以上で終わります

＜生徒の感想より＞

- **一つの写真だけでも世界に大きな影響を与えるんだなと思いました。**
- **こういった黒人差別のことをしっかりと考えていきたいなと思いました。**
- **自分が笑ったり、友達と話したりして楽しんでいるときに世界でこんな残酷なことがあるんだなと思いました。**
- **校長先生は貧しい国などを助けたいと思って、自分がなんとかしなきゃと思っていろいろ挑戦した行動力のある人なんだなと思いました。僕も自分が行動しなければなと思いました。**
- **自分もいろいろ悩みながら決めていきたいなと思った。**
- **人生について語ってくれて僕もいろんなことを考えてたくさん考えていきたいと思いました。校長先生、校長講話でいつもためになる話をしてくださりありがとうございました。**
- **自分の将来について考えるのはまだ早いとか、難しいことだと思っていたけど、生きていく中で将来やりたいことができるきっかけに出会えるという可能性をこの講話を通して見出すことができた。今日まで、たくさんの講話を聞いて、いろんな課題や現状について考えることができました。二年間、ありがとうございました。**

＊今年度最後の新井校長先生の講話は、生徒たちの心に一石を投じ、様々な事象に目を向けたり、自分と向き合ったり、自分や世界の未来を真剣に考える大事なきっかけとなりました。若かりし日の新井少年と生徒たちが時を超えて対話をしているようにも感じました。